

丸一鋼管会社説明

2026年10月23日

丸一鋼管株式会社

Ⅰ. 丸一鋼管について … 2ページ

Ⅱ. ステンレスプロジェクト … 12ページ

Ⅲ. 2026年度業績予想 … 15ページ

I. 丸一鋼管について

暮らしに密着した丸一鋼管の製品



オフィス
机や椅子などの家具にも丸一鋼管のパイプが使用されており、電線ケーブルを保護する電線管も当社の得意分野です。

半導体製造設備
ステンレスシームレス鋼管は、半導体製造設備に使用されており、ICTや自動運転等の先端技術を支えています。

水素ステーション
水素ステーションにおいては、ステンレスシームレス鋼管が高圧ガス配管として使用されています。

工場
配管用鋼管は、工場に設置されたガス管や水道管として活躍しています。

物流倉庫
工場や物流倉庫の屋根壁材にはめっき鋼板が、倉庫内のパレットやコンベアには構造用鋼管が使用されています。

発電所(ステンレスシームレス鋼管・電線管)
特に高い強度が求められる発電所では、高品質なステンレスシームレス鋼管が給水加熱管などとして使用されています。

ビニールハウス・農地
錆に強い独自の表面加工を施した農芸用鋼管は、ビニールハウスに使用されており、農業機械等にも構造用鋼管が使われています。

道路
当社のマルイチポールは、照明柱や標識柱として活躍しており、ETCガントリーにも構造用鋼管が使用されています。

店舗
当社の構造用鋼管は、コンビニなどの店舗用陳列棚等ディスプレイ材の一部として使用されています。

建造物・住宅・学校
マルイチコラムは中低層建物の柱材として使用され、鋼管杭は住宅等の基礎に打ち込まれ、耐震性向上に貢献しています。

建設現場
屋外での使用にも耐えられる強度を誇る当社のパイプは、建設現場の足場としても使用されています。

自動車
自動車のヘッドレストやシートフレームなど様々な部品として使用されています。

丸一鋼管の事業①

表面処理鋼板事業



鋼板を酸洗し、冷間圧延、溶融亜鉛めっきで仕上げを行い、耐食性と外観に優れた鋼板を製造しています。

特に、溶融55%Al-Zn合金めっき鋼帯(AL-Z55)は耐食性と防食性の双方に優れ、耐久性を飛躍的に向上させた鋼板です。また、めっき鋼帯の上に塗装を施し、耐食性、対候性、意匠性を向上させたカラー鋼板も製造しています。



詫間工場

国内では香川県の詫間工場、海外ではベトナムのSUNSCO社にて鋼板事業を展開しています。詫間工場で製造された酸洗・冷延・めっき鋼帯は、国内製造拠点で普通鋼溶接鋼管の材料としても使用されています。また、SUNSCO社ではカラー鋼板も製造しています。

- 溶融亜鉛めっき鋼帯
- 溶融55%Al-Zn合金めっき鋼帯
- カラー鋼板

特品事業



鋼管製造で培った技術を活かし、照明柱・標識柱などの鋼構造物の設計・販売を行っています。



ETCガントリー





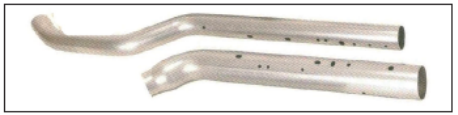
マルイチポール

- 照明柱
- 標識柱
- ETCガントリー
- 旗竿
- 鉄塔　他

その他事業

鋼管加工事業(アルファメタル)

各種鋼管を曲げたり、穴あけ等の加工を施す事業です。

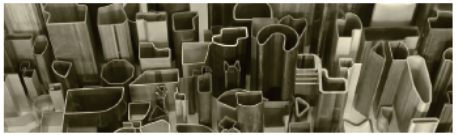


加工された鋼管

- 自動車用部品
- 機械装置、構造用部材
- 装飾品用部材

異形管事業(東洋特殊鋼業)

各種鋼管を特殊な形状の鋼管にリロールする事業です。



様々な形状の鋼管

- 建機、農機部材
- 原子力発電所、半導体工場部材　など

鋼製下地事業(佐藤型鋼製作所)

表面処理鋼板をロール成型し、角型鋼を製造しています。

- 間仕切壁、天井、床などの下地材

鋼管事業

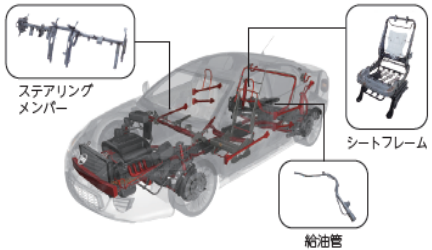


普通鋼鋼管

普通鋼溶接鋼管

丸一鋼管の祖業である普通鋼溶接鋼管は、住宅や建築物、農業、自動車等、幅広い分野で使用され、社会インフラを支えています。帯鋼（コイル）を原料とし、高周波溶接にて製造されます。高品質な製品を製造するための技術力はもちろんのこと、国内外を問わず需要地で製販体制を確立していることが当社の強みのひとつです。






ビニールハウス

- 一般構造用鋼管
- 建築構造用鋼管
- 機械構造用鋼管
- 農芸用鋼管
- 配管用鋼管
- 電線管および電線管附属品

ステンレス鋼管

厳しい腐食環境においては、耐食性の高いステンレス鋼管が使用されます。半導体や水素など脱炭素分野での需要の拡大が見込まれており、当社の成長を担う事業と位置付けています。

ステンレスシームレス鋼管

高い圧力がかかったり、また高純度な物質を管内に流す場合においては、溶接部がなく強度の高いシームレス鋼管が使用されます。丸棒の内側に穴をあけ、熱間で押し出して製造されます。化学プラントの配管に加え、半導体工場や水素・アンモニア用の配管などに使用されます。内外面の平滑度を向上させたBA管（精密細管）、コイル状に加工したコイル管等もあります。


精密細管・計装チューブ


コイル管



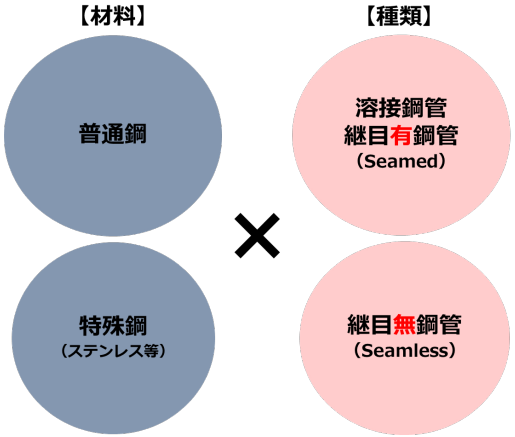
水素ガスステーション（提供：岩谷産業株式会社）

ステンレス溶接鋼管

普通鋼溶接鋼管と同じく、帯鋼（コイル）を原料とし、高周波溶接、レーザー溶接やTIG溶接にて製造されます。主にプラント配管、自動車のマフラーとして使用されており、また、今後は半導体や水素など脱炭素分野でも需要が拡大する見込みです。

- 機械構造用ステンレス鋼管（自動車・二輪車用）
- 配管用ステンレス鋼管　※2027年以降生産開始予定

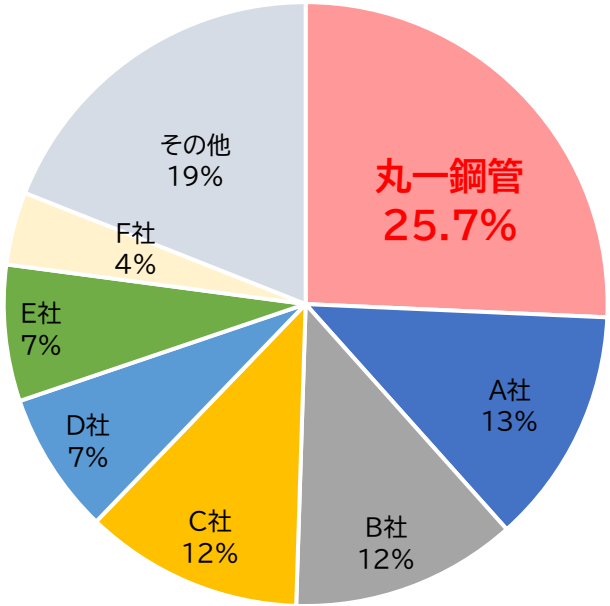
（参考）鋼管の種類



普通鋼x継目無鋼管以外は全て製造可能

2024年度　電縫鋼管国内生産シェア

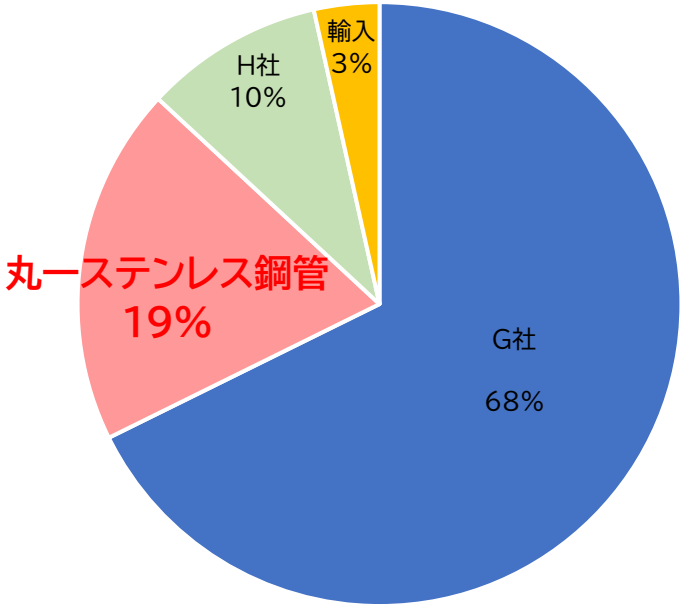
丸一鋼管は25.7%で国内トップシェア



出所：鉄鋼新聞調査を基に当社にて算出

ステンレスシームレス鋼管国内生産シェア（25年7月）

丸ーステンレス鋼管は19%で国内2位
半導体用BA管（精密細管）では世界トップシェア



出所：SMR社の調査を基に当社にて算出

丸一鋼管の事業

丸一鋼管は鉄鋼業界の中では単圧メーカーと呼ばれ
素材を購入しパイプなどに加工するビジネスモデル

高炉・電炉メーカー
JFE、神戸製鋼、東京製鉄、大同特殊鋼など

↓ ホットコイル・丸棒

丸一鋼管・丸ーステンレス鋼管
鋼管を製造

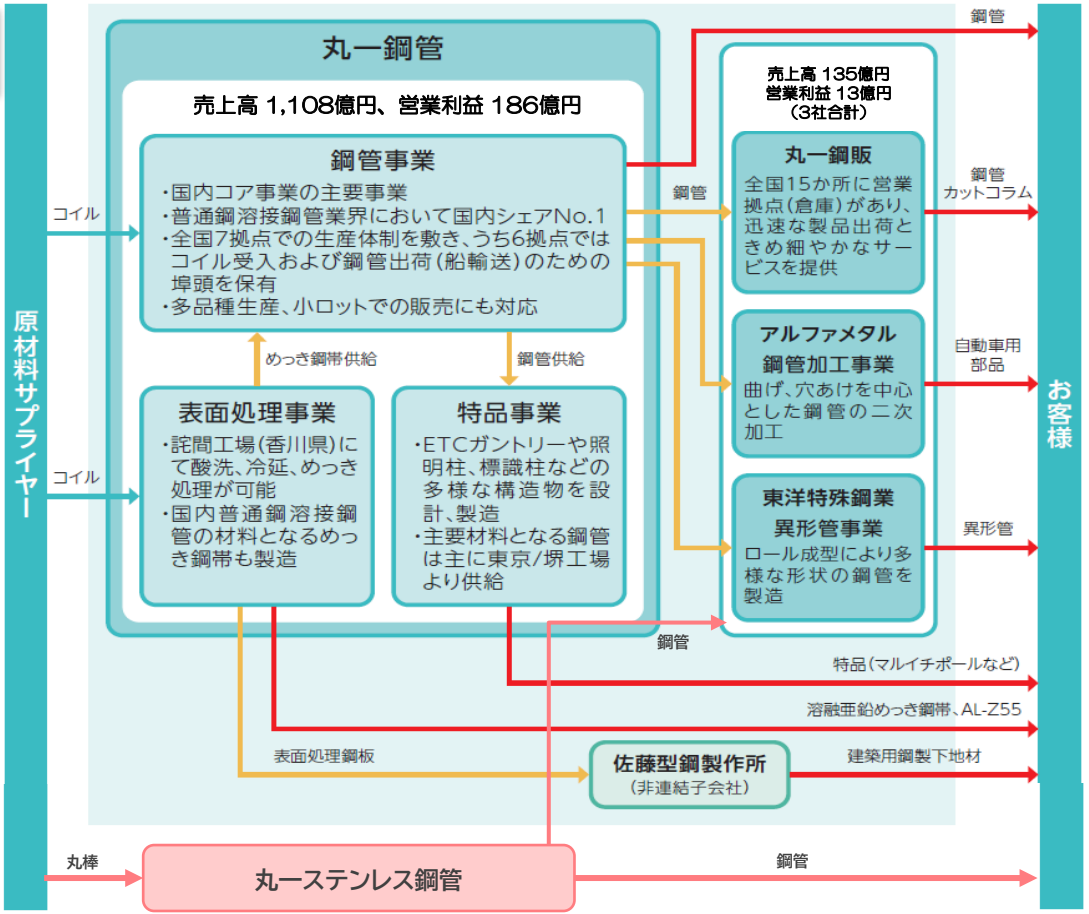
↓ 鋼管

加工メーカー等
鋼管の加工

↓

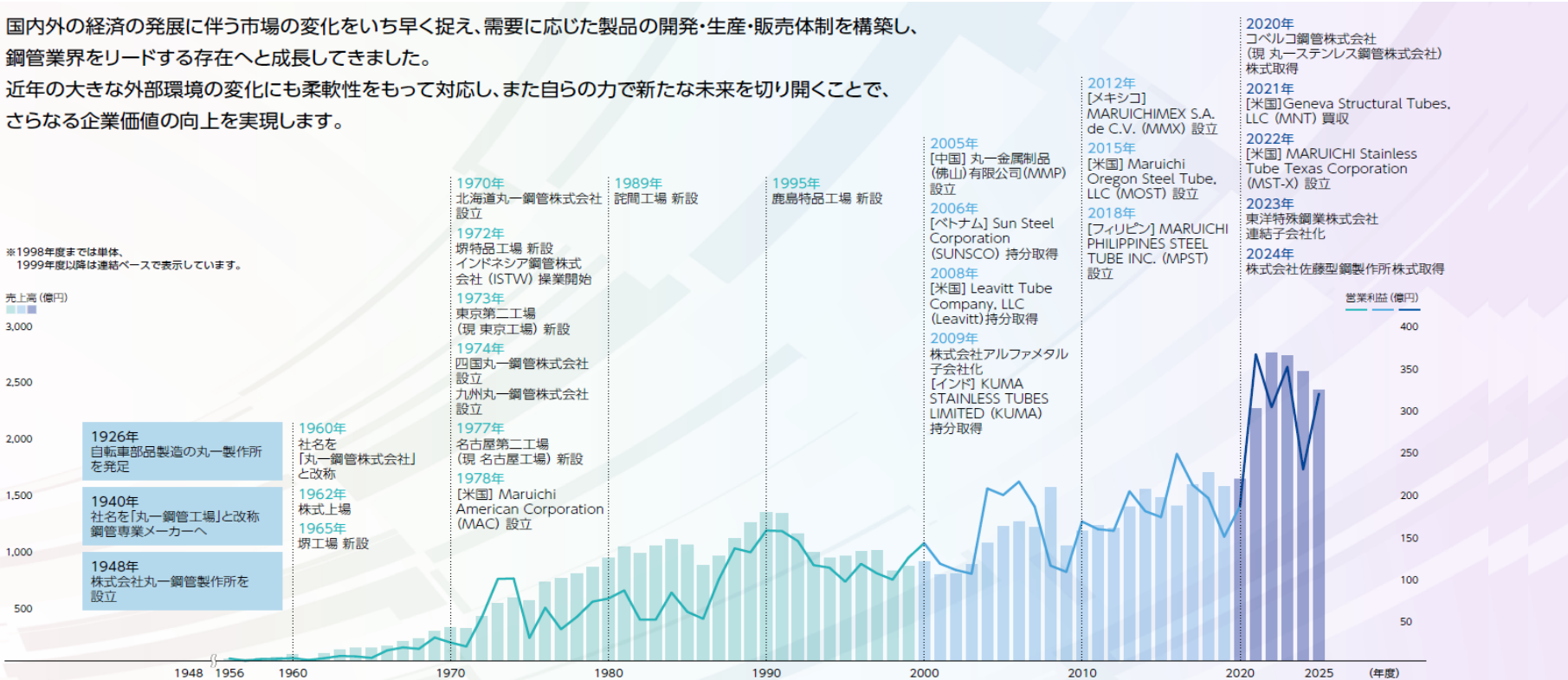
最終需要家様
（自動車、建築、農業など）

丸一鋼管グループ
鋼管を加工



成長の変遷

国内外の経済の発展に伴う市場の変化をいち早く捉え、需要に応じた製品の開発・生産・販売体制を構築し、
鋼管業界をリードする存在へと成長してきました。
近年の大きな外部環境の変化にも柔軟性をもって対応し、また自らの力で新たな未来を切り開くことで、
さらなる企業価値の向上を実現します。



Phase 1 国内事業拡大 1948年～1999年

Phase 2 海外事業拡大 2000年～2019年

Phase 3 ステンレス事業進出・拡大 2020年～

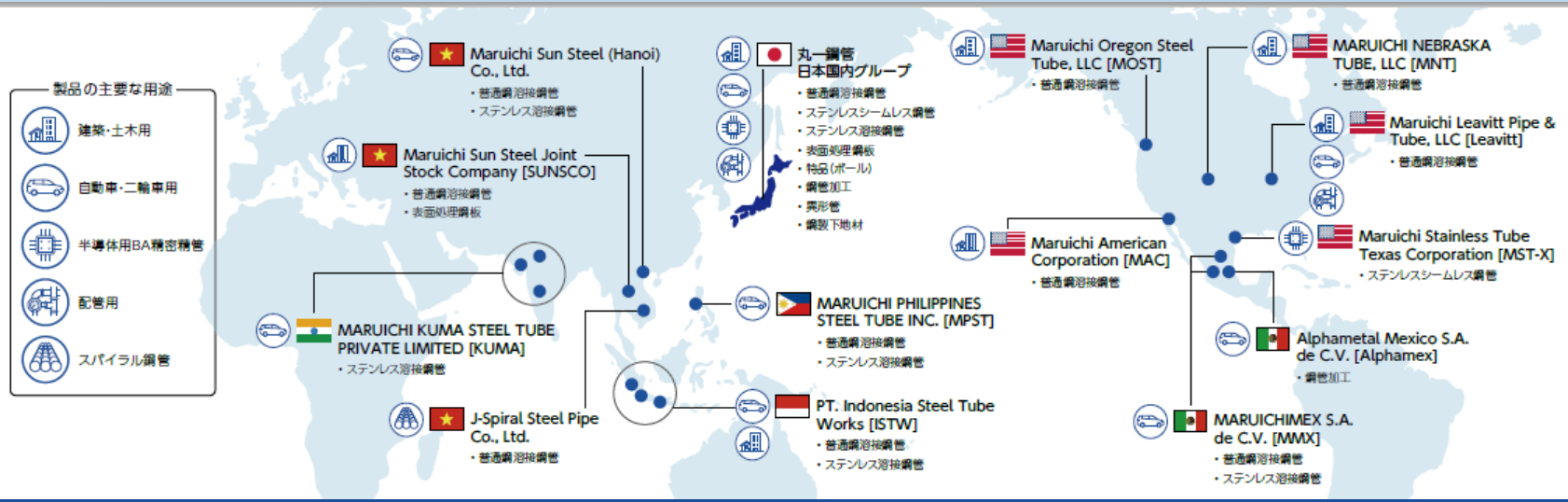
丸一鋼管の国内拠点

ニーズのある場所に生産拠点を持ち、
その地域で必要とされるものを迅速に供給する。工場は臨海地に立地し、
北は北海道から、南は沖縄まで、パイプの地産地消でCO_2削減にも貢献。
【全国の拠点数】 工場:15拠点　営業所・事務所:30拠点



丸一鋼管の海外拠点

国内の成長にとどまらず、海外のマーケットへ参入し、2006年以降に海外進出を加速させ、アジア、北米で拠点を増やしてきた。
【海外子会社数】 アジア：6拠点　北米：7拠点

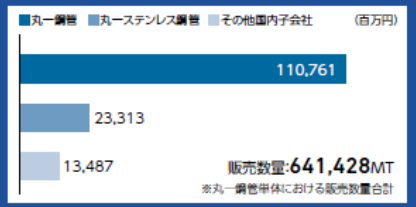


丸一鋼管グループ（2025年度）

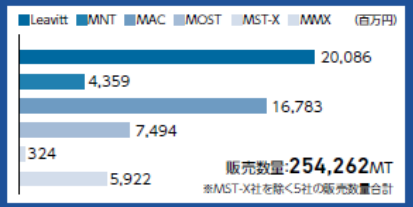
売上高	2,438億円
営業利益	320億円
従業員数	2,599名

（2026年3月31日時点）

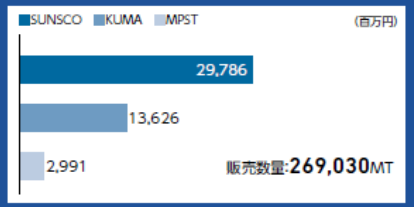
セグメント売上高（日本） 1,441億円



セグメント売上高（北米） 548億円



セグメント売上高（アジア） 448億円



Maruichi Stainless Tube Texas Corporation（MST-X）
2025年2月より商用稼働



ヌエボ・レオン州モンテレイ　MMX（メキシコ）
第2工場　2026年3月稼働開始



KUMA（インド）グジャラート工場
2インチミル生産設備を導入　2025年4月より稼働



MPST（フィリピン）倉庫棟
既存工場に2インチミルを増設　2026年1月



Ⅱ．ステンレスプロジェクト

ステンレス鋼管事業拡大投資概要

①ステンレス溶接管事業の拡大、②ステンレスシームレス鋼管の製造サイズ、生産能力拡大により

広範囲のステンレス鋼管の生産体制を確立（溶接管、シームレスの双方を製造できるメーカーへの進化）

① 丸一鋼管 ステンレス溶接鋼管事業拡大

配管用途ステンレス溶接管製造工場を新設、外径0.5～24㌅の幅広いサイズを製造可能とする事で、既存国内配管マーケット及び将来創出される国内脱炭素、半導体関連需要を捕捉

② 丸一ステンレス鋼管 大型プレス導入

大型のプレス機を導入により、ステンレスシームレス鋼管の製造可能サイズ拡大（最大外径10㌅）、高付加価値製品製造を可能とし、ステンレスシームレス鋼管の需要増を捕捉

③ EP加工事業・プレファブ事業（検討中）

・日本、台湾マーケットを捕捉すべく日本でのEP加工事業を検討中

・造船等の用途向けに加工（プレファブ）事業を検討中

プロジェクト	ステンレス溶接管	大型プレス導入
投資金額	約220億円	約260億円
量産開始時期	2027年後半	2028年初旬
収益目標（2030年度）	販売量：1,300MT/月 売上高：約100億円 営業利益：約17億円 EBITDA：約30億円	販売量：2,000MT/月 （*合計：3,200MT/月） 売上高：約290億円 （合計* 約750億円） 営業利益：約40億円 （合計* 約110億円） EBITDA：約55億円 *丸一ｽﾃﾝﾚｽ鋼管+MSTX の全社売上/営業利益
投資回収期間（純利益+減価償却）	約10年	約9年

ステンレスパーク概要(中国電力跡地概要)





最新状況

5000ﾄﾝ大型プレス工場建設中

ステンレス溶接管工場建設中



Ⅲ. 2026年度業績予想

2026年度業績見通し（2026年5月13日開示）

・売上高・営業利益は過去最高額を見込む。営業利益計画は369億円（前年比49億円増）

・半導体向けBA管の回復などによる利益増（前年比25億円）と市況が堅調な米国構造用鋼管 4社での利益拡大（同13億円）を見込む［対米ドル換算レート（円/ﾄﾞﾙ）：150円］

（百万円）

項目	2025年度（実績）			2026年度（計画）					進捗率	
	上期	下期	通期	1Q（実績）	2Q（残計画）	上期	下期	通期	上期	通期
売上高	120,539	123,225	243,764	65,032	67,268	132,300	142,200	274,500	49.2%	23.7%
営業利益	15,422	16,621	32,043	9,290	8,810	18,100	18,800	36,900	51.3%	25.2%
経常利益	16,681	17,567	34,248	10,374	8,326	18,700	19,300	38,000	55.5%	27.3%
親会社に帰属する当期純利益	10,690	15,986	26,676	5,400	6,000	11,400	14,300	25,700	47.4%	21.0%

個社別営業利益予想及び1Q進捗

（百万円）

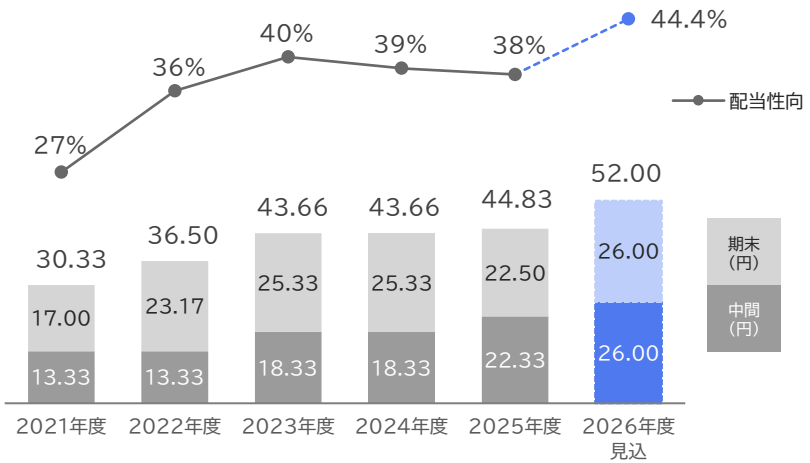
個社	2025年度							2026年度				1Q 増減額 (YoY)	1Q 増減率 (YoY)	上期 進捗率
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q (実績)	上期 (計画)	下期 (計画)	通期 (計画)			
	(a)							(b)	(c)			(b-a)	(b/a-1)	(b/c)
丸一鋼管	4,212	4,499	8,711	4,865	4,997	9,862	18,573	4,846	9,158	9,329	18,487	634	15.1%	52.9%
丸ーステンレス	122	514	636	371	628	999	1,635	486	1,029	1,921	2,950	364	298.4%	47.2%
その他国内子会社	353	242	595	359	306	665	1,260	701	1,299	1,454	2,753	348	98.6%	54.0%
Leavitt	79	708	787	171	221	392	1,179	834	1,651	600	2,251	755	955.7%	50.5%
MNT	-11	103	92	36	-13	23	115	95	288	118	406	106	-	33.0%
MAC	639	1,162	1,801	685	557	1,242	3,043	760	1,562	1,251	2,813	121	18.9%	48.7%
MOST	47	204	251	143	-33	110	361	171	372	143	515	124	263.8%	46.0%
MST-X	-170	-152	-322	-163	-226	-389	-711	-137	-73	564	491	31	-	-
MMX	458	474	932	436	348	784	1,716	389	834	863	1,697	-69	-15.1%	46.6%
SUNSCO	450	591	1,041	859	489	1,348	2,389	496	948	1,426	2,374	46	10.2%	52.3%
KUMA	187	191	378	252	354	606	984	336	665	649	1,314	149	79.7%	50.5%
MPST	219	222	441	250	166	416	857	133	285	301	586	-86	-39.0%	46.7%
連結調整	109	-30	79	221	342	563	642	180	82	181	263	71	-	-
合計	6,694	8,728	15,422	8,485	8,136	16,621	32,043	9,290	18,100	18,800	36,900	2,596	38.8%	51.3%

1. SUNSCO(ベトナム)はホーチミンとハノイの合算

株主還元と資本効率向上に向けた取組み

- 27年3期は、1株当たりの年間配当額52円。
  前年実績に対して（前年実績を株式分割後に換算し）約7円20銭の増配を見込む
- 2026年度は配当性向44.4%を見込み、継続的な自己株式取得を実施

配当金推移



自己株式取得と総還元性向

年度	年間配当額	自己株式取得額	総還元金額	総還元性向
2024年	104億円	137億円	240億円	89%
2025年	101億円	153億円	254億円	95%
2026年見込	113億円	100億円	213億円	83%

参考資料

長期ビジョン『MARUICHI 2030 VISION』

01×100 MARUICHI × HUNDRED 元気な100年企業に向けて

成長事業の推進とコア事業の深化によるビジョン実現

半導体産業、脱炭素社会への貢献を新たな**成長事業**として推進
これまで**社会インフラ**を支えてきた**コア事業**をさらに深化

成長事業の推進

半導体関連事業

- 半導体製造工場の高品位ガス配管需要の捕捉
- サプライチェーン強化に向けた協業
- MST-Xにおける北米需要の捕捉

脱炭素関連事業

- 水素やアンモニアなど新エネルギー分野における
  ステンレス鋼管需要の捕捉

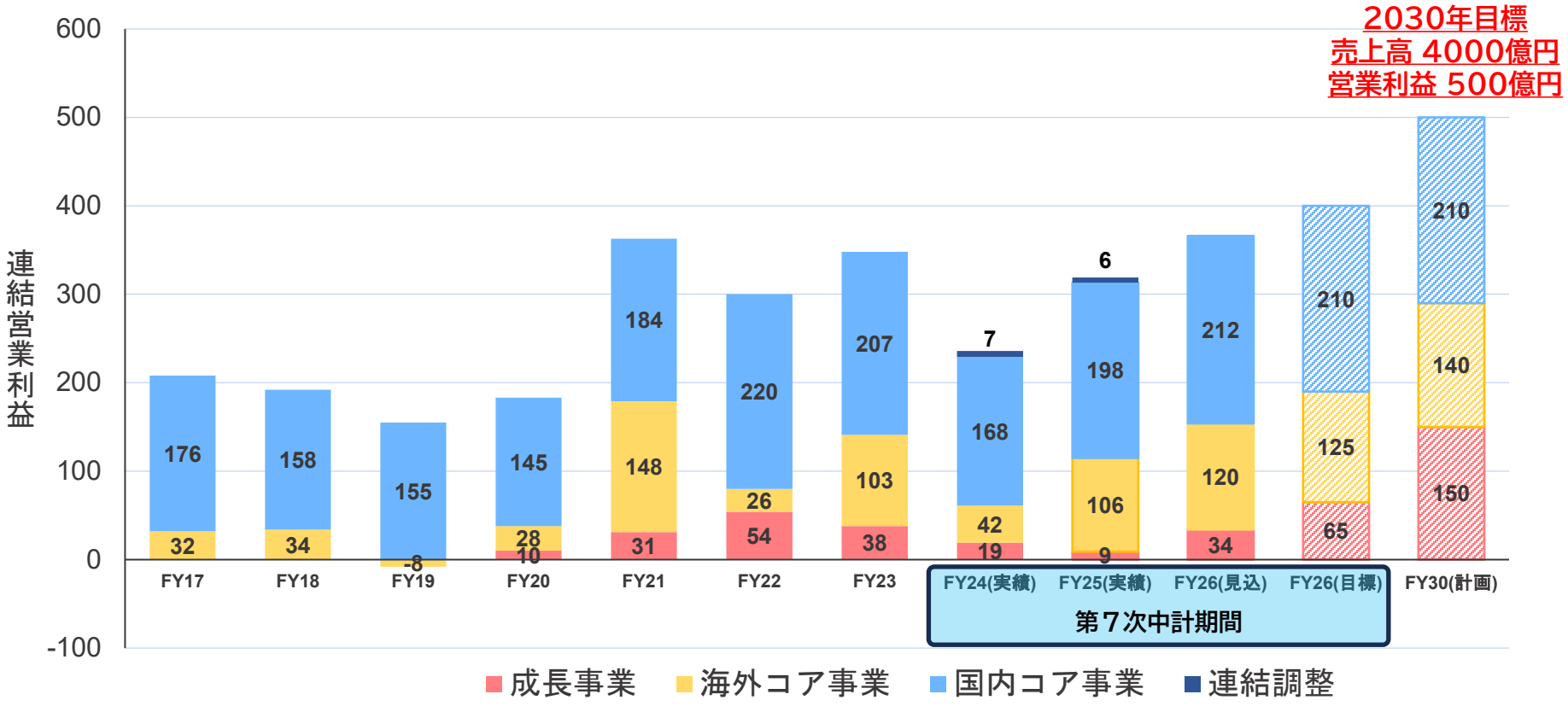
コア事業の深化

- サプライチェーン強化
（グループ企業とのシナジー）
- CO_2排出量削減による製品価値向上
（グリーン鋼管開発、電炉鋼使用など）
- 社会インフラ需要が拡大する海外での事業強化
- 変化に対応するための体質強靭化
- 事業最適化のための統廃合

ESGを意識した経営基盤

二つの基本方針を推進する上での基軸

成長事業の構成比を高め、2030年に売上高4,000億円、営業利益500億円を達成



品質・生産基盤強化を目的として、名古屋工場に

次世代造管機 を導入（新3号機）

・2025年10月商業生産開始
・設備投資額：約34億円



次世代造管機 3つのポイント

技術×仕組み×人の知恵で
高品質のパイプ を確実に

Point 1 データで つくり込む品質

経験と感覚に頼ってきた品質をデータ化し、技を仕組みとしてラインに反映。測定・矯正までライン内で完結し、安定した高品質を実現。

Point 2 自動化で実現する 柔軟な供給体制

材料投入やロール交換の自動化により段取り時間を短縮。また、切断方法の刷新により精度を高め、品質と生産効率が向上。

Point 3 持続可能な製造体制

熟練の技術をラインに反映することで、経験年数に関わらず、各ポジションで活躍できる環境を実現。また、作業の自動化により負担が軽減され、安全性が向上。


MARUICHI
統合報告書
2026
https://www.maruichikokan.co.jp/ir/ir-library/annual-report/
Click

商号	丸一鋼管株式会社
株式	東証プライム市場　上場
設立	1948年(昭和23年)3月1日
資本金	95億9,515万円
従業員数	(連結)2,599名　(単体)586名
売上高	(連結)2,437億1千万円　(単体)1,107億6千万円
経常利益	(連結)342億4千8百万円　(単体)231億7千5百万円

(※2026年3月期のデータとなっております。)

沿革

1926	自転車部品製造の丸一製作所を発足
1935	自転車鋼管の製造を始める
1940	丸一鋼管工場と改称
1948	株式会社丸一鋼管製作所を設立
1956	大阪出張所を改組し、丸一鋼販株式会社を設立
1957	大阪工場を新設
1958	東京事務所を開設
	米国アビー・エトナ社製の電気溶接製管設備を輸入し、 電縫管メーカーに転換
1960	丸一鋼管株式会社と商号変更
	名古屋事務所開設
1961	東京工場を新設
1962	東京・大阪両証券取引所市場第二部に上場
1964	東京・大阪両証券取引所市場第一部に上場
	福岡事務所を開設
1965	堺工場を新設
1966	名古屋工場を新設 （昭和５９年現名古屋工場へ統合）
	広島事務所を新設
1970	北海道丸一鋼管株式会社を設立
	札幌事務所を開設
1971	インドネシア ISTW社を設立
1972	特品工場を新設
	大阪事務所を開設
1973	東京工場第二工場を新設
1974	四国丸一鋼管株式会社を設立
	九州丸一鋼管株式会社を設立
1977	名古屋第二工場（現名古屋工場）を新設

1978	本社を大阪市西区北堀江に移転
	アメリカ MAC社を設立
1989	詫間工場を新設
1998	北海道丸一鋼管株式会社の札幌工場を苫小牧工場に統合
2000	新広島事務所・倉庫完成
2001	詫間工場に焼鈍設備を新設
2002	東京第二工場新倉庫を建設
2003	名古屋工場内に物流倉庫及び加工工場を増設
2005	JFE大径鋼管の照明柱事業を継承
2006	名古屋工場寸法切り倉庫棟竣工
	中国 MMP社操業開始
	東洋特殊鋼業へ出資
	ベトナム SUNSCO社へ出資
2007	名古屋工場０．５インチミル増設
	堺工場 第６工場の新設 設備稼働
	詫間工場 メッキ炉改造工事 酸洗ライン トリミング設備設置
2008	SUNSCO社・LEAVITT社 連結子会社化
	堺工場リニューアル工事完了
2009	インド KUMA社 子会社化
	セイケイ 堺製造所 稼働
2010	アルファメタル 連結子会社化
	SUNSCO社 １６インチミル増設
	SUNSCO社 HANOI社 操業開始
	ベトナム J・スパイラルスチールパイプ社へ出資
2011	中国 MMP天津社 稼働
	東京第二工場 ステンレス鋼管工場を新設
	堺特品工場 第2工場を増設
2012	中国 MMP社 武漢工場新設
	東京第二工場 第3工場を新設
	メキシコ Maruichimex社設立

2013	詫間工場 メガソーラー発電所 稼働
	SUNSCO社 第２CGL・CCL稼働
2014	東京工場 集約完了
	Maruichimex社 連結子会社化
2015	MOST社 連結子会社化
2016	大阪工場 集約完了
2018	フィリピン MPST社 設立
	本社、大阪事務所、営業部電材課、 丸一鋼販本社、同大阪営業所を大阪市中央区難波に移転
2019	フィリピン MPST社 操業開始
2020	コベルコ鋼管株式会社の株式を取得 丸一ステンレス鋼管株式会社に社名変更
2021	SUNSCO社 第２冷延ミル稼働
	米国GENEVA社 連結子会社化
2022	米国テキサス州にMaruichi Stainless Tube Texas Corporation (MST-X)を設立
2023	東洋特殊鋼業を連結子会社化
2024	佐藤型鋼製作所の全株式取得



Everywhere, MARUICHI
どこにでもある、
たったひとつの会社に。

将来予測に関する免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります